

現場  
癸富士山レンジャー  
REPORT

第1回

## 富士山式エコ登山のススメ

7月に入り、いよいよ富士山のお山開きです。8月末までの2ヶ月間、本格的な登山シーズンとなり、富士山は一年で最も賑やかなシーズンを迎えます。富士スバルラインから吉田口登山道に登る登山者数だけで15万人程度とされており、日本で最も人気のある登山道のひとつと言えるでしょう。

短期間に、これだけの登山者が集中すれば、環境への影響が心配です。そのために、環境への負荷を少なくすることが、美しい富士山の自然環境を守り、後世に伝えることに繋がります。それには登山者一人ひとりのマナーと協力が不可欠です。難しいことではなく、ちょっとした予備知識と心構えがあれば、誰にでも実行できることを4つご紹介します。エコな登山で楽しい思い出を作りましょう。

## ゴミは捨てない、出さない、持ち帰る

自然地域に捨てられたゴミは、美観を害すのみでなく、動物の生態や水資源に影響を与える可能性があります。富士山にゴミ箱はありませんので、自分のゴミは自宅まで持ち帰るようにしましょう。それ以上にゴミになるものを持ち込まないことが大切です。無駄な荷物や包装はあらかじめ省けばすっきりします。

## とっていいのは写真だけ

可憐な高山植物や奇怪な溶岩を見つけると、つい記念に・・・と持ち帰りたくなるかもしれませんが、富士山の自然は皆の共有財産です。また、法律でもこうした行為は禁止されており、違法行為となる可能性があります。

とるのは写真だけにしましょう。

## しっかり見極めて登山道

富士山では、登山道でない場所を歩くと、崩れやすく落石が発生し、危険なばかりか、植生を傷めることにもなります。特に、早朝や夜間などの登山道の見えにくい時間は注意しましょう。

## トイレのチップ忘れないで

富士山の環境を保全するために、し尿の適切な処理は重要な課題です。そのために、富士山の登山道にあるトイレの多くは、環境に配慮したもので維持管理に多くの費用が掛かっています。そのためにトイレはチップ制となっており、100円程度の協力を皆さんにお願いしています。小銭を持参し、トイレをご利用の際にはチップを忘れずお願いします。

以上がエコ登山のためのアドバイスですが、[こちら](#)に関しては、山麓での観光やリクリエーションでも常に心がけるべきですね。



ゴミを持ち帰るだけでなく、落ちていたゴミも積極的に拾う人も増えています。

## 小さなものをみつけたよ



## 森の妖精「ギンリョウソウ」

6月の樹海で面白い植物を見つけました。それはギンリョウソウです。一般に植物は光合成をして養分を得ているので葉緑素があり緑色をしています。しかし、このギンリョウソウは光合成を行わないので葉緑素を持っておらず、白い色をしています。ギンリョウソウのように葉緑素を持っていない植物のことを腐生植物といいます。腐生植物は菌類が落ち葉などを分解して出来た養分を吸収して育ちます。5月下旬から7月の初旬頃まで青木ヶ原樹海など、やや湿り気のある山地で多く見られます。また、これからの時期は、富士山の精進口登山道の三合目以上など、標高の高い場所で見ることが出来ます。森の中に咲いている姿はさながら森の妖精といった感じです。